Japan Geoscience Union Meeting 2012
(May 20-25 2012 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2012. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT35-P05 会場:コンベンションホール 時間:5 月 22 日 17:30-18:30

地図リテラシー普及のため，学校でもっと地図を使おう
For the diffusion of map literacy, let’s use maps in school more.

熊木 洋太 [1*], 津沢正晴 [2]
KUMAKI, Yohta[1*], Masaharu TSUZAWA[2]

[1] 専修大学／日本国際地図学会, [2](財) 日本地図センター
[1]Senshu Univ./ Japanese Cartographers Association, [2]Japan Map Center

地図コンテンツの技術の発達は著しいが，逆に一般の人の地図リテラシーの低下が憂慮されている。例えばハザードマップを的確に理解したりするためにも，広く国民が地図リテラシーを身につけ，地図を通して地理的・空間的な考え方ができるようにしていくことが一層重要となっている。地図に慣れ親しみ，地図を読み解くことができる力は，学校教育の中でその力が育まれることが期待される。

初等・中等教育においては，地図については地理の学習の中で学ぶが，地図は本来幅広いさまざまな用途に使われるものであり，地理だけで扱う理由はない。地図が普及し，国民が地図を積極的に使いようになるためには，子供のうちから地図に慣れ親しむ機会を多く持つことが望ましい。それには，学校生活の中で，地理の時間以外にも地図を利用する機会，地図に親しむ機会がたくさんあることが効果的だと思われる。

新しい学習指導要領では，これまでに増して地図の活用が強調されている。特に，小学校，中学校，高等学校のいずれの学習指導要領でも「教科用図書「地図」を十分に活用すること」という記述があり，教科書地図帳の位置づけが明確化されたことは画期的である。また，地理の時間だけでなく，高等学校の世界史，日本史では，年表と並んで地図を活用するよう求めていることが新たに盛り込まれている。「地図のことは地理」という固定観念からの脱却につながる可能性という点で，注目に値する。

地図の普及，地図リテラシーの普及のためには，学校で地理の時間以外での地図利用の機会を増やすことに一定の意義が認められる。しかし，それには具体的な事例やアイデアを示す必要がある。そこで，日本国際地図学会と (財) 日本地図センターは共同で 2008 年に「学校での地図利用促進ワーキンググループ」を立ち上げ，地理の時間以外の学校の諸活動で地図を活用する事例やアイデアを収集するという活動を行っている。その成果は 2009 年 4 月 2011 年 3 月まで,「地図中心」の連載記事「地図で広がる学びの輪」として公表した。